

## 関連企画「大阪を探検しよう！」

著者	石本 倫子
雑誌名	NOCHS Occasional paper
巻	9
ページ	9-9
発行年	2009-06-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/2999">http://hdl.handle.net/10112/2999</a>

## 関連企画「大阪を探検しよう！」

2008年10月5日（日） 平野郷（大阪市平野区）

### 成熟した「地域」と向き合う悩み

中世以来の都市、平野。その歴史を守り伝えようとする住民の意識は高く、実際に「平野・町ぐるみ博物館」を核として地域活性化が成功を収めている地域である。

果たして、これまで地元の方がたが地道に積み重ねた活動に見合うものを、私たちセンターから、改めて地域へ還元できるだろうか。私たちに何か新しいものが見えるのだろうか。

そうしたなかで、私たちの目ではなく別の目で見ると、というアイデアが生まれた。「見る」客体を探すのではなく主体を変えるのである。先入観をもたず、素直に地域の魅力を見出せる目である。

こうして、先入観や予備知識の少ない「日本に来たばかりの留学生」が平野を遠足し、その時に撮った写真のコンテストを地域連携企画当日に行なう、という基本コンセプトが固まった。

### 留学生を招く

地域連携企画は「平野・町ぐるみ博物館」（第4日曜日に開催）に合わせて10月下旬となり、その2週間前に遠足を開催することにした。関西大学の留学生受け入れは一般的に9月下旬の秋学期からであるため、留学生が関西大学に到着するのとはほぼ同時に案内と募集をするというタイトなスケジュールとなった。

国際交流センターに全面的に後援していただき、最初のガイダンスの場で、広く案内と募集をさせていただいた。おかげで申込にも混乱はなく、定員を上回る応募となった。9月29、30日の事前説明会では「平野・町ぐるみ博物館」MAP（56頁）を配布してレクチャーを行なった。

実施にあたり、最も配慮したのは留学生の安全である。そこで、往復はバス移動、現地では班行動、全員が名札を着用することにした。そして、留学生を十分にフォローする日本人スタッフの募集に対して、国際交流センターボランティアからも8名の学生が参加してくれた。

### 10月5日

当日は雨。遅刻1名、欠席3名。とはいえ、ほぼ予定どおりに関西大学を出発。車中では、留学生全員に使い捨ての簡易カメラを配布して、使い方を説明した。

到着後、A～Fの6班に分かれて、午前の自由行動および写真撮影に出発した。現地の本部としては全興寺<sup>せんこうじ</sup>の集会施設「おも路地」2階の広間をお借りした。昼には、各班で一旦本部に戻って昼食をとり、このときカメラを提出。食後は再び自由行動とし、その間に提出してもらったカメラを現像に出した。

今回の企画に快くご賛同くださったのがミナミカメラ平野店で、28人分の写真をわずか2時間で現像してくださった。おかげで、留学生は撮ったばかりの写真をその場で見る事ができた。

出来上がった写真の中からコンテスト応募作品を選び、写真のタイトルと選んだ理由、遠足の感想などを、なるべく日本語で、簡単なレポートにまとめてもらった。

日本人スタッフとも相談しながら、懸命に書きあげる姿も見られ、一日が終わる頃には留学生同士も随分と打ち解けており、帰りのバスは、朝よりもリラックスした雰囲気に満ちていた。



(石本 倫子)